

学校教育目標	○自ら学び、人と共に、より良い明日をつくる生徒を育成します。 知、体 徳、公 開					
	創立 44 周年	学校長 菊本 純	副校長 竹野 義弘	2 学期制	指定地域等	
学校概要	幼児・児童・生徒数: 191 人	幼稚部: 人	小学部: 人	中学部: 人	高等部本科: 191 人	専攻科: 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた 「(3)年間で育てる子ども像」と具体的取組
○人とかかわる力 きく・伝える・認める ○社会人基礎力 くらす・働く・つながる	・自ら考え、学ぶ生徒 ・人の話を聴き、認めながら人とかかわる力を高める生徒 ・ 日々確かに暮らすことを重ね、働くこと、つながることを大切にしている生徒 ・全教員がグランドデザインの各教科等における育てたい資質・能力を具現化する授業を実施し、資質・能力 の向上を図ると共にその取組を共有・検証することを通して授業を高め合う。 ・各教科等の学習内容表等を活用し、指導と評価の一体化を目指す。 ・進路にかかわる学習と連動した個別の指導計画の充実を目指した取組を行う。 ・一人ひとりの生徒の自己決定、自己実現に向け、本校ならではの進路指導の在り方を探る。

中期取組目標	①グランドデザインに基づいた教育活動を展開し、本校にかかわる全ての人にとって優しく、分かりやすい学校を目指します。 ・一人ひとりの生徒に寄り添い、「やろうとする、やれた!」と実感できる支援・指導を重ねることで、自己有用感、自己肯定感を高めます。 ・自分の言葉で語ることを通して人とかかわり、自分を整え、自分で決めながら学校生活を送る経験を重ねます。 ・生徒指導、相談支援を充実し、誰もが安心して豊かな学校生活が送れるようにします。 ・入学者選抜、進路指導の充実を図ります。
	②教職員が相互に連携して、組織的な学校運営をします。 ・新学習指導要領に即し、グランドデザインに基づく教育活動を展開し、その取組を共有します。 ・企業、地域等との連携を推進し、神奈川県唯一の知的障害特別支援学校高等部専門学科として社会に開かれた教育課程を創造します。

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力 担当 学習指導 研究研修	①R6年版グランドデザイン(GD)について検証を行う。また、そのGDに基づき、R5とR6年度で全教科等の研究授業を実施し、その取り組みを共有し、発信していく。 ②シラバスについて教科会で内容の確認を行い、教科横断的な教育活動を展開する。 ③研修やワークを行い、全教員が各教科等の3観点を明確にした学習内容表を活用し、指導と評価の一体化を目指す。 ④GDと学年目標、シラバスを意識し、生徒や保護者に発信していく。
徳 豊かな心 担当 特別活動 保健安全 生活支援 学習指導	①一人ひとりが互いに認め合い、自己有用感、自己肯定感を高め、合意形成を図ったり、意思決定したりする力を育む。 ②引き続き全学年で外部講師等も活用し、コーチング、アンガーマネジメントの授業を継続し、自己理解力を深め、他者理解へと繋げる。 ③全教員がスクールカウンセラー、コーディネーター、養護教諭と連携し相談活動を充実する。 ④人権等の研修の内容や外部講師の授業について、内容等を発信していく。
体 健やかな体 担当 特別活動 保健安全	①自立した生活を支える基盤となる基本的な生活習慣を確立し、日々の生活や将来の社会生活につながるよう支援する。 ②引き続き、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむ態度を育成する。 ③個別指導や相談活動の充実を図り、自己肯定感を高めて、自他の生、性に対する理解を深め、望ましい人間関係を築く態度や能力を育成する。
公 開 キャリア教育(進路支援と自立活動) 担当 進路支援 自立活動	①引き続き進路支援部・自立活動部が連携し現場実習等における学びと参加型個別の指導計画等のシステムの連動を図る。 ②相談活動を充実させ、一人ひとりに応じた3年間の進路指導の在り方について模索する。 ③卒業後の定着支援の充実に向け、教員の資質・能力、専門性の向上に向けた研修等を充実させて全体の意識を高めながら、進路・卒業学年の教員を中心に卒業後支援を継続して進める。
いじめへの対応 担当 生活支援 いじめ防止委員会	①引き続き、全職員でいじめに関する定義や学校いじめ防止基本方針を共通理解し、人権意識を高めると共に、生徒一人ひとりを大切に、安心して過ごせる場をつくる。 ②学年、相談支援担当、保健室、管理職が情報共有をし、組織としていじめ防止に取り組む。 ③いじめ防止対策等について、学校の取り組みを発信していく。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 人材育成 教務	①教職員一人ひとりが組織の中での各自の役割を認識し責任をもって校務を担当すると共に、横断的な視点をもってより良い学校づくりに参画する。 ②今後も教職員が見通しをもって働くことができるよう、会議予定等を予め示し、計画的に仕事が進められるようにする。 ③年度末反省等を活用し、業務の精選や平準化、マニュアル化を図り、働きやすい環境づくりを進める。
外部との連携(センター的機能)の充実 担当 生活支援 専門実習専任会	①今後も地域協働等による専門実習課の取組を継続的に展開し、道徳、専門実習課を中心に外部講師による授業の充実を図る。 ②ボランティア部を中心に、地域における本校生徒によるボランティア活動を行い、地域協働や地域連携の充実を図る。 ③隣接する県立横浜南陵高等学校との「総合的な探究の時間」における共同学習、専門実習課における交流等の充実を図る。
ICT活用(BYAD)と「情報」の取組の充実 担当 学習指導 情報管理	①一人一台端末(BYAD)を有する本校のICT環境を生かして、各教科や専門実習で効果的な活用法を模索、共有し、発信していく。 ②卒業後の就労先でのことを考え、今後もGoogle Workspace for Education だけでなく、Microsoft Office を扱える教育課程を創造し、3年間で両方を習得できるような授業を展開する。 ③教員も意識して使用する機会を設け、日常的に用いるよう環境作りをさらに進めていく。